

会報

鍼灸の普及と展望

« 目次 »

- | | |
|--------------------|-------------------|
| P 1 会長挨拶 | ／ P 2 学術研修会 |
| P 3 学術研修会 | ／ P 4 ラジオ出演 |
| P 5 藤田医科大学七栗記念病院訪問 | ／ P 6 D S AM講習会参加 |
| P 7 マスターズ準優勝 | ／ P 9 津まつり・津YEG蔡 |
| P 10 日本東洋医学サミット会議 | ／ P 11 ツボ押しセミナー |
| P 12 三県合同鍼灸研修会 | ／ P 13 お伊勢さんマラソン |
| P 14 松阪マラソン | ／ P 15 三重県総合防災訓練 |
| P 16 師会長会議報告 | ／ P 17 理事会報告 |

表紙写真 鳥羽展望台から見える富士山(伊勢湾)



「新年を迎えて」

会長 岡田 賢

新年あけましておめでとうございます。

今年の元日は天候に恵まれ、初日の出を拝まれた方も多いかと思います。本当に穏やかな元日でした。昨年の元日は能登半島地震がありました。次の日には支援に向かうはずの航空機の事故。夏には能登地方を豪雨が襲い大変な被害が出ました。自然の脅威を感じずにはいられない1年でした。今年は元日の天候のように穏やかな1年になることを祈るばかりです。

さて、鍼灸業界に目を向けると日本鍼灸師会の会員数の減少に歯止めがかからない状況です。日本鍼灸師会に在籍の会員はついに4,000名を割り込みました。勤務鍼灸師および休職の方を差し引いても日鍼会加入率は10%を大きく下回る危機的状況です。会員確保が喫緊の最重要課題です。皆様、会員確保のお知恵・ご意見がございましたら、ぜひご連絡ください。

理事会も、組織・学術・普及・広報・保険・青年・法人の各委員会、本年も懸命に業務に励みますので本会の事業にご協力くださいますよう、なにとぞよろしくお願ひいたします。

自治会視察研修に参加して

令和6年11月28日(木) 岐阜県本巣市

昨年11月28日(木) 地元自治会の視察研修で岐阜県本巣市の根尾谷断層および地震断層観察館を訪れました。根尾谷断層とは、明治24年10月28日に根尾谷を震源とするマグニチュード8、震度7の濃尾地震の際に形成された断層崖で約6mの高さがあります。この縦ずれ断層だけではなく最大約9mの横ずれ断層も発生しました。このような断層は大変珍しいため世界各地から地質学者が訪れたそうです。この地震は、日本内陸部で起きた最大級の直下地震で東海地方を中心に14万戸以上が倒壊、7千人以上の方が亡くなりました。

当観察館には、地震資料館・地下観察館・地震体験館（3Dシアター）があり地震メカニズム解説モニターや断層ジオラマなどで地震について学習できます。ぜひ家族で訪れ、地震および災害への備えについて考える機会にされてはいかがでしょうか。

(報告：桑名・いなべ支部 岡田 賢)



岐阜県本巣市



根尾谷地震断層観察館



地表地震断層の様子

« 研修会報告 »

第2回学術研修会

「腰痛・腰下肢症状に対する診察と鍼灸治療～基礎的・臨床的研究を踏まえて」

令和6年7月28日(日) 講師:宝塚医療大学 保険医学部 鍼灸学科 教授 井上基浩 先生

井上先生の講義は臨床データをもとにわかりやすく、とても気づきのある話、実技でした。

鍼灸以外にもさまざまな実技セミナーがあると思いますが、その手技をすることで体にどのような反応が起き、なぜ症状が改善するかを納得できる説明ができるものは少ないと思います。

講義では、「腰痛・腰下肢症状に対する診察と 鍼灸 治療」という内容で、とても鍼灸の可能性を感じました。その一方、自分の知識不足や鍼の技術（場所、刺入など）の難しさを実感しました。

井上先生の鍼治療は誰にでもできるものではなく、知識、技術がないとリスクもあると思いました。腰下肢症状で悩んでいる方は多く、鍼灸で改善できると期待をもって来院される方に対して、井上先生の講義の内容を知り理解を深めることで、井上先生のような鍼治療はできないまでも、治療の幅が広がり、少しでも多くの方の手助けになると思えた内容でした。

このような機会をいただきありがとうございました。

(報告:伊勢・鳥羽支部 山口 熱)



講義の様子 1



講義の様子 2



実技の様子 1

第3回学術研修会

「地域医療の現場について～神島とへき地医療のこれから～」

令和6年10月6日(日) 講師:鳥羽市立神島診療所 所長 小泉 圭吾 先生

初めて三重県鍼灸師会の勉強会に参加させていただき、地域医療の現場について貴重な学びを得ることができました。学生としてこのような機会に恵まれ、へき地における医療支援の実情について深く知ることができ感謝しています。

講義では、へき地に住む方々が医療を受ける際にどのようなサポートが行われているのか、具体的な事例を通じて学ぶことができました。特に、オンライン診療やBOCCOといった先進的な技術を活用して、患者の負担を軽減しながら質の高い医療サービスを提供していることに感銘を受けました。これにより、遠隔地でもしっかりと医療を受けられる可能性が広がっていることを実感しました。

また、頭痛、胸痛、腹痛、肩痛といった症状に関連する疾患の鑑別方法についても学び、非常に有意義な時間となりました。これらの知識は、将来の臨床現場での実践において、患者の症状を的確に理解

し、適切な対応をするための基盤となるでしょう。

今回の貴重な経験は、私の医療者としての成長に寄与するものとなりました。

小泉先生、三重県鍼灸師会の皆様、この度は有意義なお時間を誠にありがとうございました。

(報告：鈴鹿医療科学大学 鍼灸サイエンス学科4年 寺田 汐希・山田 鉄平)



講義の様子1



講義の様子2



親睦会の様子

第4回学術研修会

「保険制度に関する周知事項」 講師：三重県鍼灸師会 保険委員長 楠原秀一 先生

「現代鍼灸臨床」 講師：(株)さざり 丸山鍼灸科 丸山 源司 先生

令和6年11月10日(日) 三重県鍼灸会館

今回の学術研修は、保険制度に関する周知事項と、現代鍼灸臨床として『バイ・デジタルローリングテスト』に関する講義でした。

保険制度に関する周知事項では、10月から始まる新しい支給申請書の説明と、療養費に関する質疑応答、医師からみた同意書のお願いの仕方に関する内容でした。

10月から保険支給申請書の様式が変わり、新たに訪問施術料が明記され、往療料との区別がされたことが大きな変更点でした。また、保険施術を開始するにあたり、医師に保険施術同意書を書いていただくことが必須となっています。しかし、昨今では同意書をなかなか書いていただけない現状があり、依頼書の書き方やお願いの仕方の例が参考になりました。

バイ・デジタルローリングテストの講義は、私自身が専門学校時代に受けた講義を思い出させるものでした。ひとりでバイ・デジタルローリングを使いこなせれば、病態把握から配穴を確実に効率よくできるのだろうと、今も昔も考えてしまいます。

研修後の座談会でも、施術の技術を惜しみなく丁寧に説明していただき、とてもためになる講義でした。新たに学んだ技術や考え方、知識をうまく活用し、患者さんのためにより良い施術をしていきたいと思います。研修会を企画・開催してくださる先生方に感謝を申し上げます。

(報告：津支部 矢谷 淑絵)



保険制度（講義の様子）



現代鍼灸臨床（講義の様子）

« 活動報告 »

FM ラジオ放送へ出演！

令和6年7月3日(水) レディオキューブ FM 三重

レディオキューブ FM 三重の番組「ゲツモク！」内コーナーの「鈴鹿医療科学大学 ヘルシートーキング！」に、宮脇が出演いたしました。ヘルシートーキングは、鈴鹿医療科学大学の教員が、レディオキューブの人気パーソナリティ代田和也氏とともに、リスナーの方々に身近な健康・医療・福祉情報について役に立つ情報をお伝えするコーナーです。

本コーナーは7月開始の新コーナーで、そのトップバッターを宮脇が務めました。タイトルは「鍼灸師はツボの専門家」と題し、「①痛みとツボと鍼灸師、②腰痛とツボ、③首肩のコリに効くツボ、④鍼灸は脳に効く、⑤ストレス対策のツボ」のテーマで5週間にわたり、毎週お送りしました。実際にはツボ紹介だけでなく、鍼灸のメカニズムなどについても簡単にお話させていただきました。

パーソナリティの方と掛け合いをしながら話すという経験ははじめてでしたので、普段の講義とは異なる緊張感がありました。また、ラジオという媒体の性質上、聴衆の方のリアクションも見えないため、いつも以上に話すスピードやトーンに気を払い、ツボの位置を聴覚情報のみでお伝えすることもいい勉強になりました。

今年度の鍼灸担当の放送は終了しましたが、毎週水曜日の18:22~18:27の5分間放送しております。これを機にいろいろな職業を皆さんも知っていただければと思います。

(報告：四日市支部 宮脇 太朗)



ラジオ放送の様子



(左) パーソナリティ代田和也氏 (右) 宮脇先生

三重県鍼灸師会ホームページ



藤田医科大学 七栗記念病院

令和6年7月24日(日) 三重県津市大鳥町

リハビリ施設として高い評価を受けていたる藤田医科大学七栗記念病院を訪問させていただきました。以前、名古屋からの帰りの電車で相席になった方が、病院の見学受入担当者であったことから、今回の見学が実現しました。七栗記念病院は昭和62年に津市の山中に開院し、当初はサントリウム（結核療養所）としてスタートし、その後、緩和ケアや回復期リハビリ病院として発展してきました。

私の祖母や、関わらせていただいた患者さんが入院した際にお見舞いに伺ったことはありました。今回のようにしっかりと見学をさせていただくのは初めての経験でした。

見学は、副院长からの挨拶と病院紹介から始まり、病院食の実食も体験しました。土用の期間ということもあり、うなぎのちらし寿司をいただきました。ボリュームがあり、とても美味しかったです。食はリハビリの治療の基本であるという食養科の皆さんとの熱意が伝わってきました。昼食後は、緩和病棟の見学を行い、最新のロボットや計測装置を使用したリハビリの様子も拝見しました。計測装置から得られるデータとセラピストの経験が相乗効果を生み出し、効果的で意欲を高めるリハビリが展開されていました。

最後に、約30年間この病院で勤務されている坂口鍼灸師を交えて意見交換会を行いました。多職種の中での鍼灸師の役割や、終末期医療における関わり方について多くのことを教えていただきました。医師やセラピスト、鍼灸師、その他さまざまな職種のスタッフがチームで考え、患者さんを支える姿からは学ぶべき点が多くありました。

お世話になりました皆様、ありがとうございました。

(報告: 伊賀・名張支部 澤本 一)



歓迎ボード



集合写真



病院食



リハビリ室



藤田医科大学 七栗記念病院

DSAM 災害支援鍼灸マッサージ師合同育成講習会

令和6年7月28日(日) 大阪府淀川区 履正社国際医療スポーツ専門学校

前回までの講習会内容は、国の災害対応や現状の法律説明、ダンボールベッド組み立て体験、避難所運営ゲーム（HUG）を通じた災害支援の学びでした。

今回の講習内容は、災害支援に参加する鍼灸マッサージ師が問題を起こさず、即戦力として活躍できるように変更されました。それは、1月1日に発生した能登半島災害支援活動に、多数の鍼灸マッサージ師が参加し、さまざまな問題点や改善点が見つかったためです。



講習の様子

第1部 基礎講座「令和6年能登半島地震 DSAM活動報告」

講師：是元佑太（DSAM代表）、仲嶋隆史（DSAM副代表）から、能登半島災害支援ボランティアでDMA-Tからの信頼と今まで以上のDSAM活動への期待が報告されました。また、活動に行った場所の方々からの感謝の言葉も伝えられました。しかし、逆にいくつかの問題も報告されました。たとえば、服の上からの刺鍼、置鍼中に患者から離れる、DSAMが決めたルールを無視して変更しようとする、自家製健康スープを振る舞うなど、多数の問題が発生しました。

第2部 実地体験「ダンボーロベッド組み立て、クイックパーテーション体験」

講師：矢津田善仁（DSAM委員）から、避難所で使用されているダンボーロベッドの組み立て、クイックパーテーションの広げ方と畳み方を参加者が協力しておこなう実地体験をしました。ダンボーロベッドに寝てみて、ベッドの頑丈さと堅さによる寝心地の悪さを実感し、クイックパーテーションの畳み方にはコツがあることや、パーテーション内での圧迫感を実体験しました。

第3部 ロールプレイング「実践！DSAM隊員としてどう動くのか？」

参加者は4人一組に分かれ、それぞれの組で①受付係、②問診係、③施術者、④受療者役を分担し、受付から施術終了まで20分ほどの制限時間でおこないました。受付場所や施術室、使用する道具も能登半島災害支援ボランティアでおこなわれていた状態を再現しました。開始からさまざまな問題発生を再現しました。たとえば、複数の症状を訴える被災者や施術中の地震発生、文句を言う被災者、使用許可に関するトラブル対応など、実際に起こった内容と想定される内容に基づいた支援活動の一連を体験しました。

今回の講習会は即戦力となるための内容になっており、受講することで災害支援活動に不安なく参加できる内容でした。

（報告：津支部 水谷 浩樹）



ダンボーロベッド作成の様子



クイックパーテーション実地体験



ロールプレイングの様子

全日本マスターズ陸上競技大会で準優勝をして

令和6年9月23日(月) たけびしスタジアム京都

いきなり恥ずかしくなるようなタイトルで原稿依頼を受けたのがインフルエンザ検査でA型の陽性が判明し高熱と全身疼痛で身もだえしている真っ最中の布団の中、松阪マラソン翌日のことでした。「もし松阪マラソンのブースへ行っていたら拡散していたな」とか「手伝いをサボった私へ罰があたったのか」と思ったり思わなかつたりしつつも病院処方薬の明解なる効果に病床六尺の心中ただ驚くばかりの私がありました。

高校生から始めた陸上競技のハンマー投を仕事が軌道に乗った38歳ころから再開しました。陸上競技とは楽しいもので「走る・跳ぶ・投げる」の三大運動をさらに細分化させて記録を競い合うスポーツです。

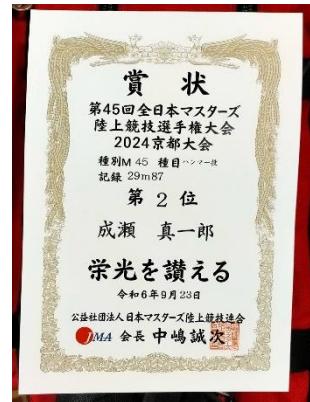
さらに現役選手が年齢区分なくチャレンジする一般大会と35歳以上から5歳刻みで年齢区分されたマスターズ部門に分かれており、年齢差にくじけることなくチャレンジできるルールのもと楽しめるスポーツです。

マスターズには三重県大会、東海大会、全日本大会、アジア大会、世界大会とあります。陸上競技以外でも各スポーツでマスターズクラスの試合や練習会は行われているのでニュースなどで見かける機会もあるはずです。当院開業時からメンテナンスご利用の松阪市の森田さん(64)は世界大会4位の実力者で国内大会は何度も日本記録を塗り替える猛者。私なんかよりもずっと面白い体験談を披露してくださるはずですが今回は私の話でご勘弁ください。彼以外にも早くからマスターズ競技にチャレンジして仕事とスポーツをうまく人生の糧にしている方もいらっしゃいます。三重の短距離マスターズは全国でも有名です。

9月23日に全日本マスターズ京都大会のハンマー投は開催されました。大会期間3日間の最終日でした。会場が三重からも近い京都ということでエントリー。昨年は山口で来年は福岡での開催です。マスターズ陸上に参加する選手では90歳代の方もみえますから49歳の私が語るなど恐れ多い話ですが、恥を忍んで私が感じたことをお話しします。

「生涯スポーツは良いことだ」を実感できる。生体活動は過負荷と順応の原則により適度なる刺激を受ければ精神的、肉体的、技術的に程よい刺激を得られることができ、また順応してゆくことができます。教科書で読んではいても実際に運動し上達あるいは下達などの体験を重ねると自身の中にある生命反応や内観的身体観のようなものに触れることができ成功も失敗も含めて楽しいです。これが生涯続けばもうルンルンですね。

「老化を嫌というほど痛感」できてしまします。走る距離や投げる物の重さが不变であることに対し、人のスキルや感覚およびそれから動作へと関連付ける神経系や筋骨格に基づく運動能力は経年低下します。やはりトレーニングしていても落ちてゆくものです。特に細胞の減少による回復力の低下には高齢アスリートの皆様方はそれぞれ認識と対策を持っておられ、お話を伺うと大変興味深いです。これらの情報は鍼灸師としては生きた勉強と個人的に思っています。「参加者の人格から学ぶことが多い」と大会に参加するたびに思います。中には「癡強おじさん」やら「なんやコイツ」みたいな人もいますが、大会の上位入賞者の皆様方は本当に人格者が多いです。スポーツに専念できる学生ではない社会人



表彰状

ばかりのマスターズ大会ですと、大会へ出るための費用と時間と職場や家族からの理解を捻出しなくてはなりません。しかもその活動を長年継続してこられるだけの人間関係構成力や周りの人から自然と応援を得てしまうような人懐っこさというか人間力にあふれた人が多いようにも感じます。その空間や人との関りから得られるものは鍼灸師としての診察問診能力や対応能力などへの格好の実習になるのではないかなど個人的には思っています。

そして「仲間との再会から活力を得られる」んです。かつて学生時代に競い合った仲間や先輩後輩たちとの再会はまるで同窓会です。写真で一緒に移っている方は大学の一学年先輩ですが当時から仲が良く青臭い議論をよく交わしました。彼が失恋してかなり落ち込んでいました1月中旬の雪の日「気合をいれるぞ！」と二人で矢作川上流にて寒中水泳をして大風邪を引いた仲間です。こんな話題はスポーツコミュニティーにはけっこうあります。

鍼灸師として診療業務をしながらハンマー投というパワースポーツにチャレンジするにあたって気を付けることをお話しします。まずはオーバーワークによって私自身の心身が傷まないようにすること。特に技術系種目であるハンマー投げの場合はうまくできているときは記録もよく達成感もあり、ギャラリーからチヤホヤされるため「見せる化」を起こしてしまい「オーバーワーク」の罠にはまります。部活内での先輩は後輩の前で良いところを見せたいので、同じような「見せる化アフター症候群」とでもいうような状況には気を付けています。

手にマメを作らない工夫もしています。私の現役時代はハンマーを投げ込むトレーニング以外に高重量のバーベルを1日計トン単位で上げ下げしていましたので手のひらは溶接手袋のようでした。例えば冬季練習中の一日のバーベルを軽いものから順に例に挙げますと以下の通りです。びっくりしますよ。

ベンチプレス

60×10 70×10 80×10 90×10 100×10 110×10 120×5
130×3 140×1 計6, 230kg

ハイクリーン(スナッチの鎖骨までのイメージです)

60×10 70×10 80×10 90×10 100×10 110×10 120×10
130×6 140×3 計7, 500kg

スクワット

60×10 70×10 80×10 90×10 100×10 110×10 120×10
130×10 140×10 150×8 160×6 180×1 計11, 340kg

総計1日で25, 070kg 25トンです！！体育学部で投擲種目を真面目にやっている学生の普通のバーベル運動です。それでも室伏広治さんには勝てませんでした。しかし室伏さんに勝っていましたら鍼灸師という素晴らしい職業に就いていなかつたかもしれません。



人の集まる場で心技体の向上や熟練を楽しむチャレンジは文化でも運動でも素晴らしいです。私は新しい年も良いチャレンジと良い医療活動がしたいと思います。

(報告：松阪支部 成瀬 真一郎)

大学時代に雪の矢作川で一緒に泳いだN先輩と再会

鍼灸普及イベント活動—2024 津まつり・津YEG蔡—

令和6年10月13日(日) 津市フェニックス通り

10月は台風の影響で雨天が続いていましたが、今年は数年ぶりの快晴となり22万人もの来場者があった津まつり。いまだに世間での鍼灸イメージは、「鍼灸を知らない!」「鍼灸施術の経験がない!」「鍼って痛い!」「灸は熱い!」と言われることも多くあります。そのようなイメージの脱却と鍼灸受療者を増やす目的で、今年も鍼灸体験をしてもらうために出展しました。

体験された方の感想は、「鍼は痛くない!」「灸は熱くない!」鍼灸に思っていたイメージと全く違う印象を持って行かれます。なぜそんなに効果があるのか、東洋医学の考え方、ツボに興味を持たれる方も多数いました。活動を通して普段から未病に興味を持つてもらい、鍼灸知名度を上げ受診者を増やしていきたいと思います。そして何よりも健康な体で日々、暮らしていただきたいと願っています。 (報告:津支部 水谷 浩樹)



出展会場の様子

第19回(公社)日本鍼灸師会全国大会 in 福岡

~原点回帰~未来に伝えたい鍼灸の技~

令和6年10月26日(土)・27日(日) 未来ホール&カンファレンス



経穴人形パネル



大会旗継承の様子

今年度の全国大会は、「未来に伝えたい鍼灸の技」という意義深いテーマのもと、充実した内容で開催されました。初日には伝統鍼灸を代表する流派の先生方による実技供覧を含むシンポジウムが行われ、「The Japanese Moxibustion」を学ぶ貴重な機会となりました。二日目のプログラムでは、現代鍼灸、メンタルヘルス、小児はりなど、多岐にわたるテーマで鍼灸の技が語られ、見識を広げることができました。特に青年企画では「推しツボムービー総選挙」と題して、全国から寄せられた「推し」のツボを紹介するムービーが上映され、会場は大いに盛り上がりを見せました。ちなみに私は「天鼎」を推しツボとして投稿しました。市民公開講座では、福岡から世界に向けて発信された「ワンヘルス」をテーマに、日本医師会名誉会長の横倉先生、福岡県獣医師会副会長の野原たかし先生をお招きし、人と動物の健康、そして環境の健全性を一体的に捉える新しい考え方について学びを深めました。

また、国際委員会のセッションでは、JLOM(日本東洋医学サミット会議)のメンバーにご登壇いただき、伝統医学関連の国際標準化における現状について貴重なお話を伺うことができました。中国や韓国が国際標準を自国に有利な内容にしようと攻勢を強める中、限られた資源で懸命に取り組んでこられた先生方の熱意に触れ、鍼灸を生業とする私たちがこの活動を支えていく必要性を強く実感いたしました。全国大会では演題を通じた知識や技術の習得はもちろんのこと、会場での出会いや展示から多くの学びを得ることができました。次回の筑波での開催も楽しみにしています。

(報告:伊賀・名張支部 濑本 一)



私が鍼灸や漢方の国際標準化に関わるようになって20年近く。「日本鍼灸のために頑張ってくださっているのですよね」と励ましのお言葉をいただくこともあります。一方で「国際標準って臨床家とは関係ないのでは」と思われている先生も多いのではないでしょうか？

本稿では単回使用毫鍼規格（ISO 17128）を例に国際標準化についてお伝えします。ご存じのように中国では鍼は一般的に鍼管を使わず、ツボに直接ズンッと刺します。ですからISOで鍼の規格を作る時も中国は「剛性（たわみにくさ）」や「鍼先の鋭さ」を要求事項として入れることを主張しました。一方、日本は鍼管を用いることもあります、鍼は細くしなやかで、また鍼尖も先端を微妙に丸く作る場合もあり（SEIRIN JSPシリーズなど）、剛性や鍼先の鋭さは必須ではありません。これらを要求事項として規格に盛り込むとメーカーはこれをクリアするために第三者機関で試験を実施しなければなりません。当然そのコストは最終的に鍼を使う私たちの負担です。このように国際標準はたった一つの項目を加えるだけでも日常の臨床に関わってくるのです。



これはほんの一例ですが、私たち、JLOMは日本で臨床に関わる先生方が不利益を被らないように日夜活動を続けています。JLOMの活動はFacebookグループでも紹介しています。ぜひアクセスください（「伝統医学の未来を創る会」で検索しますとヒットします）。

Facebook グループ 二次元コード

（報告：日本東洋医学サミット会議JLOM 顧問 東郷 俊宏）

2024年全国地域ケア担当者会議

令和6年11月1日(金) zoomミーティング

令和4年より全国地域ケア担当者会議は、鍼灸師・鍼灸師会の地域包括ケアシステムへの参入を目的とし、地域ケア連携（他職種連携）への理解、各地域で取り組んでいる事例、疑問、困りごとを共有する意見交流の場となっています。さらに、地域ケアに関する知識を深め、鍼灸師が地域ケア推進委員会と会員のパイプ役として活躍し、活動しやすくするために各師会の担当者と情報交換を行っています。

前回までに、他職種連携・医療連携に至ったきっかけなどが紹介され、今回は介護保険制度についての研修として、「なぜ介護保険制度についての知識が必要なのか」「介護保険制度の概要」「鍼灸師が関わることについて」「地域ケアの進捗状況の共有」、意見交換が行われました。

普段、来院している看護師やケアマネから患者の紹介を受けたり、われわれから患者の状態を鑑み、ケアマネに紹介したりすることもあります。本会でも医師会や看護協会などを訪問し、他職種と「顔の見える関係の構築」を行っています。普段の臨床の延長線上に起こることです。会員の皆さんのが少し意識し動き、お互いの専門性を生かし、助け合っていくことで「連携」になると思います。皆さんからの連携報告もお待ちしております。

また、日鍼会主催の「地域ケアZoom行脚」では、鍼灸師個々での活動をクローズアップし連携においての事例、疑問や失敗談などの情報を共有しています。今後、参入していく方への参考になりますので、案内が届きましたら興味のある先生は、ぜひご参加ください。（報告：鈴鹿・亀山支部 楠原 秀一）

ツボ押しヘルスケア講義

令和6年11月14日(木) 桑名市北部老人センター



講義の様子1



講義の様子2

昨年11月14日(木)に、桑名市北部老人センターにおいて「ツボ押しヘルスケア講義」を行いました。北部老人センターでは一昨年に続き2度目の開催となり、前回も参加された方々も多数お見えになり、「待ちわびたよ」と温かくお迎えいただきました。

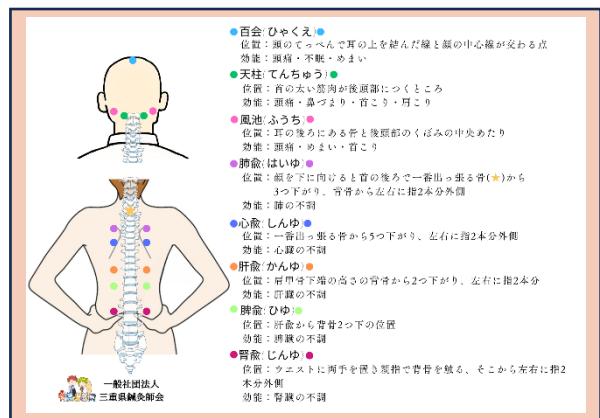
参加者は15~16名と館長さんからは聞いていたのですが、会場には25名の方に集まっていた私も少々緊張気味の開講です。

自己紹介もほどほどに、※「ツボの位置およびツボ効能」資料を基に解説し、ツボの押し方などはまさしく手取り足取り指導して回りました。地元桑名市でこのような講義を7回ほど行いましたが、参加者の健康増進の意識の高さに驚かされます。その都度、われわれ鍼灸師は皆様の健康の一端を担う本当に素晴らしい医療を届けていると実感します。

もっともっと鍼灸が皆様の身近な存在になるように努力していきます。

※「ツボの位置およびツボ効能」資料は、堀田三華子理事に作成いただきました。マラソンケア会場の他、各イベントで配布させていただき分かり易いと好評です。本当にありがとうございます。

(報告:桑名・いなべ支部 岡田 賢)



ツボの位置およびツボ効能

三重県鍼灸師会YouTube



第57回 愛知・岐阜・三重合同鍼灸研修会参加報告

令和6年11月17日(日) じゅうろくプラザ

11月17日(日)、岐阜のじゅうろくプラザにて、岐阜県鍼灸師会主催の研修会が開催されました。今回は医学博士の三村直己先生を講師としてお招きし、お灸をテーマにした2部構成です。

第1部では『灸の基礎的な考え方』、第2部では『灸の臨床効果』について、詳細なご解説をいただきました。講演では、お灸に関する最新の作用機序について学び、施設の事情により実際の点火はできませんでしたが、三村先生より直接、紫雲膏灸の具体的な手技についてご指導いただく貴重な機会となりました。私は紫雲膏を正しい形で載せることに四苦八苦しましたが、隣に座っていた岡田会長はさすが!三村先生から一発OKをいただくなど活躍されていました。個人的にお灸は臨床でよく使用しているので、こういった機会で知識のアップデートや明日からでも使用できる実践的な技術を学べることは大変貴重な時間です。研修会後は会場をアクティブGの「円相くらうど」に移し、和やかな雰囲気の中で意見交換会が開催されました。

今回の研修会では、お灸治療に関する最新の知見から実践的な手技まで、幅広く学ぶことができ、大変有意義な時間となりました。次年度は愛知県鍼灸師会が主催と聞いていますので、勉強はもちろんですが旧交を温める機会として、ぜひ参加したいと思っています。

(報告:四日市支部 奥田 一道)



講義の様子 1



講義の様子 2



岐阜の街並み

鍼灸普及イベント活動—第2回つしんまちホコ天イベント

令和6年11月23日(土) 津新町通り

津まつりから約一ヶ月後、つしんまちホコ天イベントに鍼灸普及のために鍼灸体験イベントを行いました。津まつりの時と同じように鍼灸のマイナスイメージをプラスイメージに変わるように東洋医学の考え方や経絡とツボについての簡単な説明、症状に対してのツボ紹介、鍼と灸の体験イベントをしました。

体験してもらった方々と話を聞きますと、健康で悩んでいる方やどこへ行っても良くならないと悩まれている方、東洋医学や鍼灸に興味があるがよく分からぬと言った意見が多かったです。説明をすると熱心に聞かれ、初めての鍼灸体験で思っていたイメージと違って感動される方も多数おられました。

このような活動を通して未病という概念が常識になり健康維持増進に鍼灸施術が選択肢として構築していくように普及して行きたいと思います。

(報告:津支部 水谷 浩樹)

イベントブースの様子



日本ファシア会議

令和6年11月25日(土) お茶の水ソラシティ

私は一昨年から「日本整形内科学研究会」という会に参加させていただいている。医師、鍼灸師、理学療法士が主体となり、手術をしない方法で痛みや病の解決法を探求しています。人体の中でも「ファシア」に注目し、エコーを使って、医師はハイドロリリース、鍼灸師は鍼、理学療法士は手技や物理療法など、それぞれの資格要件と得意分野で治療方法を深めています。

会場はお茶の水ソラシティでした。初めてお茶の水に降り立ち、駅前には順天堂大学、日本医科大学、中央大学、明治大学などの学校群がそびえ立つ独特の雰囲気を感じました。

今回の発表では、ファシア治療の最前線や産婦人科領域でのファシア、東洋医学とファシアなど、興味深い講義が続き、エコーの実技の時間も十分に設けられていました。私たち鍼灸師は、医師以外で唯一体内に鍼を刺せる資格を持った職種です。熟練した「手」の感覚は重要ですが、鍼を可視化することで、目的の筋や靭帯などを高い精度での刺激、神経周囲や血管周囲の癒着箇所の治療も可能になります（私はまだ技術がおよびませんが）。これまで、できないと思っていたことができるようになる毎日、大きな期待を感じています。



実技の様子



お茶の水ソラシティ

懇親会では、この一年でオンライン講義の講師の先生や著書を執筆された先生方など、憧れの先生方と直接お話しをさせていただき、非常に有意義な時間となりました。今回特に印象的だったのは、医師の先生方の鍼灸や東洋医学への期待度の高さです。「ハイドロリリースでできることは、鍼治療でもできる」「医師は東洋医学や鍼灸師から学ぶことが多くある」「ファシアと、経絡との相関性の高さに驚かされる」など、多くの励ましの言葉をいただきました。これは先輩方が積み上げてこられた信頼の結果だと思います。「臨床家は、研究者であり、科学者であれ」という言葉を胸に、日々の臨床で研鑽を重ねていきたいと思います。

(報告：伊賀・名張支部 澤本 一)

野口みずき杯2024中日三重お伊勢さんマラソン：ケア活動

令和6年12月8日(日) サンアリーナ

「スポーツ鍼灸セラピー三重」の活動の1つとして、お伊勢さんマラソン参加選手の出走前後の鍼、テーピング、ストレッチなどのケア活動を行いました。

出走前に利用される方はテーピングやストレッチ、円皮鍼という0.6mmほどの鍼がついたテープを貼るなど、走る前のコンディショニングに来られる方が多く、出走後は鍼、ストレッチでケアをされる方が多くみました。

受付時間が限られていますので、一人にかける時間は多くありません。しかし、施術中に体の状態など話もでき、ケアの大切さを感じていただきました。

ケアをされる先生方は、決められたことをやるのではなく利用される方の要望や状態によって対応し、利用していただいた方の中には、鍼が初めてという方や、普段体のケアをされていない方もいましたが、みなさんに喜んでいただきました。

厚生労働大臣免許を持つプロ集団の活動として、三重県内の市民マラソン大会や健康イベントを通じて、鍼灸普及啓発活動とともにみなさまのケガ防止と健康増進の活動を行い、市民の健康センターとして活動していきます。

(報告：伊勢・鳥羽支部 山口 穎)



ケア活動の様子 1



ケア活動の様子 2



野口みずきさん

みえ松阪マラソン2024:ケア活動

令和6年12月15日(日) 松阪市総合運動公園

12月15日(日)、3回目の開催となる三重県唯一のフルマラソン大会「みえ松阪マラソン2024」に、鍼灸普及委員として参加させていただきました。今回は99人の利用があり、施術者6名・受付2名で頑張ってきました。活動目的は、ゴール会場にてマラソン参加者のケアを行うことで、鍼灸の素晴らしさを広く知ってもらうことです。多くの先生方が持ち合わせた卓越した技術を駆使し、限られた時間の中で、参加者の方々の症状を効果的に緩和させていく様子は、鍼灸の奥深さを改めて実感させられました。フルマラソン完走後の参加者の方々は、筋肉痛がひどく、歩くことすら困難な方が多くいらっしゃいました。しかし、先生方の巧みな施術により、10分程度の治療で歩けるようになる方が続出。豪鍼などの高度な技術を駆使しながらも、参加者の方々の状態に合わせて丁寧に対応する姿に、鍼灸の多様性と可能性を感じました。

今回は前年度までの反省を活かして寒さ対策としてブースを4面横幕で覆うようにして風対策を行ったため前年度よりは暖かく施術ができたのも、効果upに繋がったと思います。今回の活動にご協力いただいた先生方、大会関係者の皆様に心から感謝を申し上げます。今後も、鍼灸の普及と発展のために尽力してまいります。

(報告：伊勢・鳥羽支部 奥山 敬太)



ケア風景



ケアブースの様子



集合写真

三重県総合防災訓練

令和6年12月22日(日) 鈴鹿サーキット



訓練の様子



開会式の様子



吉川ゆうみ参議院議員と記念写真

時々小雨の降る寒い会場で、鈴鹿山脈の東部に伸びる鈴鹿市東縁断層帯を震源とする大規模地震を想定した防災訓練が鈴鹿サーキットで開かれました。最大震度6強の地震を想定し、建物倒壊や多重事故現場から救助する手順などの合同訓練に東海北陸7県の88団体が参加しました。

本会は来場者、出展者に対してNHKの「トリセツ」「東洋医学のちから」などや雑誌でも最近クローズアップされている東洋医学、ツボの効果を知つてもらうため鍼、温灸などの体験、体調管理や疾病予防に取り入れてもらえるよう本会作成のツボリーフレットをはじめ、セイリンカレンダー、ツボケアハンドブック（日鍼会）を配布、機会があれば受診できるように住まい近くの会員施術所の紹介を行いました。利用者からは、「ツボって不思議ですね」「気になるところを刺激するだけではないですね」「身体が軽くなりました」などの感想をいただき、天候の影響でたくさんの来場者とはいえませんが健康維持、鍼灸の普及啓発につなげる有意義な活動の1日になったと思います。

(報告：鈴鹿・亀山支部 楠原秀一)

(公社)日本鍼灸師会 令和6年度 東海北陸ブロック会議 in 岐阜

令和6年10月13日(日)・14日(月・祝) 岐阜県鍼灸マッサージ会館

令和元年のブロック編成後に本会担当から始まった6回目のブロック会議に6県7師会の29名が、岐阜県鍼灸マッサージ会館に集まりました。今年度は石川県担当でしたが、令和6年元日の能登半島地震によって会場予定であった輪島市の被災により、次年度予定の岐阜県での開催となりました。

師会長会議が行われたあと、本会議となり日本鍼灸師会の中村会長からあいさつがありました。また、日本鍼灸師会と各鍼灸師会のそれぞれの役割、協働・連携、鍼灸業界全体に関する課題、業界の発展、社会的地位の向上、国民に対しての鍼灸の普及啓発活動などの状況説明もありました。そして、安田副会長、児山副会長より日鍼会への質問、意見、要望に関して鍼灸師身分法改正、発災時における支援活動についてなどの説明となり、その後は各県師会事業報告・計画に対する質疑、各県師会からの議案上程と2日間に渡っての協議を予定通りに終了することができました。担当県師会からは運営も含めて多くのスタッフが参加されるので、新たな顔も交えての意見交換会でした。今年度はブロック内の師会長の呼びかけで、この会議以外にもオンラインによる情報交換の機会もありさまざまな情報が共有できま



会議の様子 1



会議の様子 2

した。これらを今後の会の運営に生かせるようにしていきたいと思いますので、ご協力を
お願いいたします。

(報告：鈴鹿・亀山支部 楠原秀一)

2024年度 全国師会長会議報告

令和6年12月1日(日) 全水道会館ビル

去る12月1日、全国師会長会議に出席しました。今回は東京都千代田区水道橋で開催されたので、会議風景の他、すぐ近くの東京ドームの写真を掲載します。(東京の空も青かった！！)

13時の副会長開会の辞に続き中村会長があいさつで、身分法の改正(身分の明記)、養成校・企業・学会とのコラボによる業界の底上げ、会員自身の積極的な行動と日鍼会への協力要請など今後の方向性を説明し、全国師会長の自己紹介に移りました。

各委員会では、スポーツ鍼灸: 2/11 スポ鍼トレーナー研修会開催など、国際: JROM(国際東洋医学サミット)への活動費寄付のお願いなど、健保: オンライン資格確認など、法人管理: 公益法人法変更3項目の説明、研修: NELS・マナブル・医療連携研修会説明など、組織: 労災特別加入促進など、地域ケア推進: 機能訓練指導員実務研修・介護予防運動指導員運動実技などの説明が行われました。日鍼会各委員会からの情報は本会各委員長に入りますので、その都度早急に夫婦岩メールなどで会員各位に連絡いたします。

地域におけるさまざまな取り組み例については、以下のとおりです。

- ①宮城県師会: 第60回日赤医学会開催の件。
- ②群馬県師会: 高崎市での「お灸・ツボ押し教室」12会場年6回で市から108,000円の補助金あり。
- ③兵庫県師会: 無資格者との区別化の件。
- ④島根県師会: 島根中医学会の説明。

特に①と④の報告では、東洋医学・鍼灸に理解並びに興味を持つ医師の存在が大きく関わっています。各師会の取り組みは興味深く大変刺激になりました。



会場の周辺



会議の様子

15時からは、「鍼灸マッサージを考える国会議員の会」所属の片山さつき参議院議員が「2040年問題を見据え健康活躍社会をどう創るかを考える」の演題で特別講演されました。

毎年、会議資料として「会員登録集計表」が配布されますが7年半で約1,000名の減少で総会員数4,000名を割り込みました。危機的な状況を何とか回避しなければと焦るばかりです。

(報告: 桑名・いなべ支部 岡田 賢)



一般社団法人
三重県鍼灸師会
MIE Acupuncture & Moxibustion Association



令和6年度 第2回理事会報告

日 時：令和6年9月1日（日）13：00～15：30

場 所：オンライン（Zoom）会議

出 席：岡田賢、新谷有紀、楠原秀一、奥山敬太、堀田三華子、東淳子（理事）、加藤はる美（監事）

欠 席：瀧本一、松山真理子（理事）、仲家栄一（監事）

書 記：楠原秀一

議事録作成：新谷有紀

議事録署名：岡田賢、加藤はる美

審議事項

第1号議案 令和6年度中間調査実施の件

中間調査の実施日については監事と調整の上決定

第2号議案 令和6年度東海北陸ブロック会議の件

会場（岐阜県）出席：岡田会長、楠原副会長、オンライン出席：新谷

第3号議案 学術研修会受講料の件

現行の受講料を継続する。三重県鍼灸師会会員2,000円、三重県鍼灸師会会員以外（会員外鍼灸師、日鍼会会員、一般）4,000円、学生部員1,000円、学生2,000円（学生は申込時に学校名を必須事項とする）。研修鍼灸師（登録が必要：現在登録者なし）2,000円とする。（承認）

第4号議案 療養費申請DKシステム使用料の集金及び管理の件

DKシステム（療養費）の管理を三重県鍼灸師会が行い、利用料金の集金送金口座も三重県鍼灸師会口座を使用する。送金手数料は三重県鍼灸マッサージ師会と本会で折半とする。（承認）

第5号議案 令和6年度自民党友好団体等への要望の件

9月19日（木）自民党友好団体等への要望についての聞き取りが行われる。本会からは鍼灸身分法について、鍼灸同意書内の文言について、フレイル等予防事業または健康促進事業への参入機会拡大を要望する予定。資料提出は9月12日30部、聞き取り会は11月19日。（承認）

第6号議案 令和7年度事業及び予算の件

令和6年度末で移行期間が終了。今後は収支バランスを考え事業の見直し7年度予算に反映。（承認）

第7号議案 職員給与の件

10月1日三重県最低賃金が973円から1,023円に賃上げの決定に伴い本会職員の時給を1,050円に値上げする。開始時期はシステムの便宜上9月21日からとする。（承認）

第8号議案 議案上程を含むその他の件

議案1. 10月から療養費申請用紙が変更となり今までの用紙が使えなくなる。申請用紙は各自ダウンロード等で準備することになっているが混乱を避けるため今回のみ津市の伊藤印刷に発注し取り扱い会員へ配布する。（承認）

令和6年度 第3回理事会報告

日 時：令和6年11月10日（日）10：00～11：30

場 所：三重県鍼灸会館およびオンライン

出 席：岡田賢、新谷有紀、楠原秀一、瀧本一、奥山敬太、松山真理子、堀田三華子、東淳子（理事）、
加藤はる美（監事）

欠 席：仲家栄一（監事）

書 記：楠原秀一

議事録作成：新谷有紀

議事録署名：岡田賢、加藤はる美

審議事項

第1号議案 令和7年度各委員会事業計画及び日程の件（継続）

第2号議案 令和7年度各委員会予算の件（継続）

【表紙：鳥羽展望台から見える富士山】

表紙に掲載した写真は「鳥羽展望台から見える富士山と伊勢湾」です。この絶景は伊勢湾と日本の象徴ともいえる富士山が一望できる、まさに特別な場所からの一枚です。三重の豊かな海と富士山の雄大な姿が織りなすこの光景には、悠久の時の流れと未来への希望が感じられます。私たち鍼灸師の姿もまた、患者様の健康と幸せを支えるために、時代を超えて紡がれる存在でありたいものです。

富士山がどんな天候でもその姿を見せ続けるように、会員の皆様が日々の努力を重ね、地域医療に光を灯す存在であり続けることを願っています。新しい年を迎えたこの冬、皆様が築いてきた信頼と経験を土台に、新たな飛躍の年となっていくよう進んでいきましょう。

（広報委員長 堀田 三華子）

一般社団法人三重県鍼灸師会 会報 第135号（令和7年2月12日発行）

発行者 一般社団法人三重県鍼灸師会 会長 岡田賢

〒514-0004 三重県津市栄町二丁目325番地

TEL 059-227-3345

MAIL harikyu_mie@vesta.ocn.ne.jp

発行責任者 堀田三華子（広報委員長）

表紙写真提供 鳥羽展望台から見える富士山と伊勢湾

圓振-ENSHIN-

東洋医療を集約し
今までにない身体にやさしい施術を可能にした

遠赤外線振動療法器

4つの共鳴&ゆらぎ周波

ファシアをリリース（筋膜リリース）
特殊プローブによる奇経施術効果
経絡経穴に作用し、身体の調整を行う



**H1:口脾振
H2:俞募振
H3:百脈振
H4:精氣振**

鍼・灸・鍼灸周辺機器、用品等
てい鍼のことなら



イトウメディカル
ITO MEDICAL

〒500-8841
岐阜県岐阜市高野町5-18

JR岐阜駅・名鉄岐阜駅より 徒歩約8分
駐車場完備

TEL (058) 266-4598
FAX (058) 266-7060
HP <http://itohari.com/>
ネット注文 <http://itohari.shop/index.html>
E-mail ito.hari@tiara.ocn.ne.jp



HP



公益財団法人 国際医療技術財団



開発途上国へ医療技術支援を！
日本列島へ災害医療人材育成を！

ジムテフ
私たちJIMTEFは、1987年に設立された公益目的事業
100%（収益事業ゼロ）の民間の国際医療協力NGO
災害医療支援団体です。

JIMTEFへのご寄附は、税制優遇措置があり寄附金控除の対象になります。
JIMTEFの運営費のほとんどは寄附金で支えられており、私たちの活動理念にご賛同頂けましたらぜひご支援をお待ち申し上げております。